

令和元年度学校評価アンケート結果について（お知らせ）

春陽の候、保護者の皆様方には益々ご健勝のことと存じます。日頃は、本校教育に深いご理解、ご支援をいただき厚くお礼申しあげます。

さて、令和元年度学校評価アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。約89%の方から回答をいただきました。その結果について次のようにご報告いたします。なお、この結果は、本校教育の改善と充実を図るために活用させていただきます。また、児童・保護者アンケートの集計数値及びすべての項目についての3年間の経年変化、考察を添えてホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。

1 学校評価アンケートの結果について（抜粋）

（1）児童アンケート

（成果）

- 問1では、約95%の児童が「先生は、毎日の授業をわかりやすく教えてくれている」と回答しています。一方で、問2「漢字や計算の力がついてきている」、問3「テストでは、思い通りの点数がとれている」の回答状況と連動しており、授業はわかりやすいが結果に結びついていなかったり、わかりやすい授業と思えない児童が思い通りの点数がとれていないと回答しているのではないかと考えられます。今後も、児童が学習に対して意欲をもって臨んでいくために、「わかった」「できるようになった」という達成感や満足感を持たせる授業が行えるよう、さらなる「授業力の向上」に努めます。
- 問10では、約90%の児童が「先生は、勉強や運動、生活でがんばったときほめてくれる」と回答しています。問9「自分には、よいところがある」の回答状況と連動しており、今後も児童同士を互いに協力させて取り組ませたり、児童が活躍できる場を設定することで、互いに認め合う雰囲気をつくり、自己有用感を高められる取組を図っていきたいと考えています。
- 問13では、約88%の児童が「身の回りの整理整頓は、自分でできている」と回答していますが、学年によって大きなばらつきがみられます。児童自身が整理整頓の意味をしっかりと理解し、今後とも家庭との連携を図りながら指導していくことで、「自分ができる」という自己肯定感の育成にも繋げていきたいと考えています。
- 問19では、約90%の児童が「先生は困ったり悩んだりしたときには、相談にのってくれる」と回答しています。教師と児童一人一人の人間関係をより望ましいものにするためには、教師から認められることを喜びと感じたり、学級にいることへの不安感が取り除かれたりすることによって、大きく変化します。今後とも、教師と児童、児童同士の間人間関係づくりに努めます。
- 問20では、約80%の児童が「学校へ行くのが楽しい」と回答しています。学級や学校でのこれまでの日常的な指導をはじめ、様々な取組の成果だと考えていますが、一方で約20%の児童が肯定的な回答にはなっていません。今後も、一人一人の児童に心を配り、常に温かい雰囲気、協働的な関係で結ばれ、どの児童にとっても「学校が楽しい」と思えるような集団や校風をつくっていきけるように努めます。
- 問23では、ほとんどの児童が「いじめはどんな理由があってもいけないことである」と肯定的な回答をしており、「いじめはいけない」と考えています。今後もいじめを許さない態度、思いやりのある心を育むよう人権教育、道徳教育をより一層推進します。

（課題）

- 問9では、約80%の児童が「自分には、よいところがある」と回答していますが、学年によって大きなばらつきがみられます。褒める、話しかける、話を聞く、互いに認め合う場面をつくるなど、児童一人一人を大切に学級経営に取り組むことで、自己有用感を高めさせたいと考えています。
- 問11では、約85%の児童が「物事がうまくいかないとき、ねばり強くがんばり続けることができる」と回答していますが、学年によって大きなばらつきがみられます。具体的な目標を持ち、自信を身につけ、結果ではなくその過程を大切にできる児童の育成を図っていききたいと考えています。
- 問15では、約87%の児童が「先生、友だち、近所の人に進んであいさつをしている」と回答していますが、肯定的な回答割合は昨年度より大きく減少しており、学年によって大きなばらつきがみられます。「おはようございます」のあいさつから、「ありがとうございます」の感謝の気持ちへと繋げ、家族の一員、地域の一員としての自覚を育てたいと考えています。

（裏面へ続く）

(2) 保護者アンケート

(成果)

ほとんどの項目において、昨年度よりも肯定的な回答をいただきました。

- ・学習に関する項目については、問1では、約83%の保護者の方が「子どもは、学校の勉強に意欲的に取り組んでいる」、問2では、約93%の保護者の方が「子どもの学力の状況はよくわかっている」、問3では、約84%の保護者の方が「学校は、基礎的な学力定着に熱心に取り組んでいる」、問5では、約86%の保護者の方が「学校は、子どもの学習規律の定着に熱心に取り組んでいる」、問6では、約90%の保護者の方が「子どもは、家庭学習（宿題）をきちんとしている」と肯定的な回答をいただきました。今後も「家庭学習のてびき」を活用したり、「家でもしっかり学習しよう週間」の充実に努めることで、家庭学習（宿題）ができていくかどうかの確認状況や保護者の方の言葉かけなど、ご協力をよろしく願います。また、わかりやすい授業実践に努めるとともに、さらなる基礎学力の定着を図ってまいります。学力向上についての取組である日々の「当たり前のこと」が徐々に定着しつつありますが、ご家庭との連携に努め、学習規律の定着に取り組んでまいります。
- ・問26では、約96%の保護者の方が「学校はPTAや地域と連携して開かれた学校づくりに努めている」、問27についても、約96%の保護者の方が「学校は子どもの安全確保、健康管理のための取組を行っている」と肯定的な回答をいただきました。今年度新設の質問項目ですが、本校における教育活動の成果を検証し、学校運営を改善することで、保護者、地域から信頼される学校づくりをより一層すすめていきます。また、教育活動全体を通じて、安全教育、健康教育を推進するとともに、保護者、地域との連携や情報交換を密にし、児童が安心して学校生活を送れるよう取り組みを継続していきます。

(課題)

- ・問7では、約58%の保護者の方が「子どもは、自分のいいところを理解している」と回答いただきましたが、経年変化でみると年々肯定的な回答が減少しています。今後もご家庭と連携し、社会性の基礎となる自己有用感の育成を図ってまいります。
- ・問9では、約53%の保護者の方が「子どもは何事にも粘り強く取り組む」と回答いただきました。「やる気」と「粘り強さ」の基本にあるのは、「意識」と「自己肯定感」です。「これは大切なことだからしっかりとやろうと思う心」と「自分にはできる。自分は認められていると思う心」を身につけられるよう、ご家庭と連携を図りながら育んでまいります。
- ・問13では、約67%の保護者の方が「子どもは、先生、友だち、近所の人にすすんであいさつをしている」と回答いただきました。肯定的な回答割合は昨年度より減少しており、児童アンケートにおいても大きく減少しています。このことから、全体的には自分から進んで元気よくあいさつできる子どもたちが少ないのではないかと考えられます。保護者の方や地域の方とも連携を図りながら、あいさつが自然にできる習慣を身につけてほしいと思います。今後とも、ご協力をお願いします。

2 学校関係者評価の意見

- ①引き続き、基礎学力の充実に努めてほしい。
- ②引き続き、安全教育・特別支援教育の充実に努めてほしい。
- ③児童の自信に繋がる言葉かけ、他人を認める教育の充実に努めてほしい。
- ④自己肯定感の育成を図ってほしい。
- ⑤どの児童にとっても「学校が楽しい」と思えるような集団や校風をつくってほしい。

3 おわりに

本年度も、教職員が協働して黒崎小学校教育の充実に取り組んできました。保護者や地域のご支援・ご協力を賜り、本校の児童もすくすくと成長していることに心より感謝いたします。来年度も、皆様よりいただいたご意見を参考に、学校教育の改善と充実に努めてまいります。今後とも、引き続き、ご支援・ご協力をお願いいたします。